（別紙様式）　　（Ａ３判横）

# 令和７年度　学校自己評価システムシート（県立　新座　高等学校）

| | |
|---|---|
| 目指す学校像 | 一人一人の自立を重んじ、主体的に社会に貢献できる人材を育む学校 |

| | |
|---|---|
| 重点目標 | 変化が激しい社会を生き抜くために、社会人として自立し、主体的に社会に貢献できる生徒を育成する<br>１　社会人スキルとしての基礎学力を身につけ、すべての生徒が生涯にわたり学ぶ喜びを実感する　《基礎学力の向上》<br>２　一人一人の生徒に徹底的に寄り添い支援・指導し、自立を促し、自己実現の醸成を図る　《自己実現の醸成》<br>３　外部機関と共に連携し、社会貢献意識の醸成を図り、チームとしての学校力の向上を果たす《開かれた学校づくり》 |

| 達成度 | | |
|---|---|---|
| | A | ほぼ達成（８割以上） |
| | B | 概ね達成（６割以上） |
| | C | 変化の兆し（４割以上） |
| | D | 不十分（４割未満） |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者　学校関係者　５名
　　生徒　１名
　　事務局（教職員）　１１名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

## 学校自己評価

### 年度目標

| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | （現状）<br>観点別評価による指導と評価の一体化を推進しつつ、ICT 機器の活用が進んでいる。生徒個々への支援体制を整え、SC・SSW の活用が進んだ。しかし遅刻・欠席が多く、各学期の成績優良者数及び成績不振者数の改善が見られていない。<br>（課題）<br>遅刻・欠席数の減少と成績優良者数及び成績不振者数の改善。SC・SSW の活用による生徒支援体制の強化。 | ○指導と評価の一体化を推進し生徒個々の基礎学力の定着と学ぶ意欲の向上を図る取組を進める。<br><br>○少人数授業や ICT 活用、SC・SSW との連携等、生徒個々に対するきめ細かい支援を行う。 | ①観点別評価の検証と見直しを行い、生徒の実態に則した指導と評価の在り方を検討するとともに、ICT を活用した授業改善に取り組む。<br><br>②定期考査前の勉強会や各種検定試験への取組を通して学習習慣の定着を図るとともに、遅刻・欠席数の減少をはかる具体的取組を進める。<br><br>③生徒個々に対するきめ細かい支援体制を整え、SC 及び SSW と連携し教育相談的視点での生徒の育成を行う。 | ①各教科及び教育課程委員会による指導と評価の検証と検討の取組と、授業研究プロジェクトを中心とする ICT 活用と探究的な学びの推進の取組。<br>②成績優良者数及び不振者数の推移。検定試験等への取組。<br>③遅刻・欠席数の推移や挨拶の励行状況及び SC・SSW の活用状況。<br>④各種面談の実施状況やアンケート等の調査結果。 |
| 2 | （現状）<br>SC・SSW、学習サポーター、日本語支援員、通級支援員等、計画的な外部人材の活用による生徒支援を行っている。総合的な探究の時間による SST（ｿｰｼｬﾙ・ｽｷﾙ・ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ）を計画的に実施した。<br>（課題）<br>予算に対する外部人材の活用率の更なる向上と、総合的な探究の時間における組織的な SST の取組。 | ○計画的な外部人材の活用による生徒支援の充実。<br><br>○SST の取組を３年間を見通した計画のもとで実施し、生徒の自立と自己実現を段階的に醸成する取組を行う。<br><br>○学校行事等における生徒の様々な活動を通して、生徒個々の主体性の伸長や社会性の養成を行う。 | ①総合的な探究の時間を柱に各学年の目標に沿った取組を行い、自分自身を振り返る機会を設定し、多様な進路実現に繋げる。<br><br>②学習サポーター等による積極的な学習支援を行う。<br><br>③通級支援による個別指導を必要としている生徒への対応を実施する。<br><br>④部活動や生徒会活動及び学校行事等を通した体験活動の推進を図る。 | ①ガイダンス等の実施状況及び総合的な探究の時間における生徒の取組状況とキャリア教育指導の状況。<br><br>②学習サポーターや支援員等の活用状況。<br><br>③通級支援員による個別指導状況等の活用状況。<br><br>④部活動加入状況や各種体験活動の内容と取組状況。 |
| 3 | （現状）<br>小中学校等との連携事業や文化祭の一般公開、生徒募集に係る広報、ホームページ更新や保護者へのメール配信等、広く広報活動を行っているが、志願倍率は低迷している。<br>（課題）<br>地域連携の充実とホームページ更新頻度の向上、生徒募集に係る中学校への広報活動の精選と工夫改善。 | ○PTA・後援会だけでなく地域機関との連携を積極的に進め、地域に開かれた学校づくりを進める。<br>○ホームページによる情報発信や学校説明会等を積極的に行い、外部の本校教育活動への理解度を高める。 | ①小中学校など近隣機関との連携事業や各種行事を通して、生徒会や部活動等を中心に地域連携を推進する。<br><br>②ホームページ更新や学校説明会等、外部への情報発信を積極的に行うとともに、一斉メール等を活用し保護者への情報発信にも取り組む。 | ①校外機関と連携した取組の活動状況。講演会等の外部人材の活用状況。<br><br>②ホームページ更新状況や学校説明会等の実施状況、一斉メールの活用状況。 |

### 年度評価（１月１３日　現在）

| 評価項目の達成状況 | 達成 | 次年度への課題と改善策 |
|---|---|---|
| **◎観点別評価による指導と評価の一体化を進め、生徒個々にアプローチする学習支援を行い、生徒の学習環境を整えた。【ほぼ達成】**<br>○観点別評価が定着し、各教科会を中心に指導と評価の一体化の検討と検証が進んでいる。授業研究会の研究協議に ICT を活用し、教職員の ICT スキル向上に取り組んだ。<br>○授業研究会年６回、定期考査前勉強会、学習サポーターの活用等、生徒個々にアプローチする学習支援を推進した結果、成績優良者数がやや増加した。成績不振者数の改善にもつなげたい。<br>（2 学期期末　優良者数：今年 59 名 昨年 55 名 不振者数：今年 177 名 昨年 161 名）<br>○継続的な立哨指導や「遅刻改善ラリー」に加えて、「遅刻なくそう週間」を新たに始め、生徒支援部と学年が連携して挨拶の意識づけや遅刻・欠席の減少に粘り強く取り組んだ結果、遅刻は昨年度比６%、欠席は３%減少した。また、SC 及び SSW を計画的に活用し、生徒個々にアプローチする継続的な支援を実施できた。<br>○アンケートにおける学校満足度は、生徒 77.1%・保護者 89.7%で概ね良好ではあるが、生徒は昨年の数値(80.6%)より下がった。施設・設備への満足度が特に低く(51.9%)、特別教室へのエアコン設置の要望が多かったことが影響していると考えられる。 | A<br><br>A | ○授業での ICT 活用も増えているが、タブレット PC を忘れて職員室に借りに来る生徒が多数いる。授業で ICT を使いやすい環境の整備が必要である。<br>○遅刻・欠席の数を減らすための方策について一層の工夫・改善が求められる。<br>○SC・SSW と連携し生徒個々へのきめ細かな支援を継続して取り組む必要がある。<br>○特別教室のエアコン未設置等、施設・設備面で生徒の満足度が低い。 |
| **◎外部人材の活用によるきめ細かな生徒支援や、総合的な探究の時間を柱とする計画的なキャリア教育の取組により、生徒一人一人の自己理解と多様な進路選択の意識づけを図ることができた。【概ね達成】**<br>○総合的な探究の時間は運営委員会を中心に各学年の目標に沿って計画的に実施し、SST による人間関係構築や多様な進路への意識づけを図った。各種進路行事は計画通り実施でき、外部講師の活用等により多様な進路希望に応じた計画的な進路指導を実施できた。<br>○学習サポーター（延べ約 28 日）及び日本語支援員（約 34 日）による生徒への個別指導により、通常授業時のサポートや定期考査に向けた支援を計画的に行うことができた。<br>○通級支援員（約 10 日）を計画的に配置し、ソーシャルスキルトレーニングによる生徒への支援を行った。<br>○部活動への加入状況は全体 52%、運動部 27%、文化部 25%で、各種大会への参加や地域の行事への貢献等、充実した活動ができた。また、文化祭の一般公開による来客対応や、修学旅行での自然体験学習等、生徒の体験活動の充実を図ることができた。 | B<br><br>B<br><br>B | ○学習サポーター及び日本語支援員の活用を一層推進し、個別対応が必要な生徒へのサポート体制をより強固にする。<br>○進路行事や総合的な探究の時間の取組を進路指導部や総探運営委員会で検証し、より教育的効果の高いものへと改善を図る。<br>○校内の学校行事の更なる充実、修学旅行や校外学習での体験活動や、地域行事への積極的な参加等により、生徒の社会体験の充実を図る。 |
| **◎学校説明会や中学校訪問、ホームページ更新等により外部への効果的な広報を行うことができた。また、メール配信等により保護者との連携を積極的に行った。【ほぼ達成】**<br>○体育祭の保護者観覧や文化祭の一般公開などにより、地域や保護者に対し開かれた学校づくりを推進できた。また、ダンス部による近隣小学校との交流事業や、ダンス部・軽音楽部・吹奏楽部が地域イベント等で演舞・演奏を行う等、部活動を通して地域連携を進めた。<br>○彩の国進学フェア参加、中学校訪問（年２回）、学校説明会（年５回）等、積極的な広報に努めた。また、ホームページ更新を継続的に行い、日誌等への書き込みだけで約 96 件、その他お知らせや中学生向けページなどを更新した。メール配信については、重要案件に限定しつつ約 50 件の発信を行い、保護者への積極的な情報発信をすることができた。 | A<br><br>A | ○外部機関や地域との連携を一層充実させ、地域に根差した活動による開かれた学校づくりの推進を図る。<br>○ホームページを一層充実させる等、中学生や保護者への広報を強化し、志願者の増加につなげたい。 |

## 学校関係者評価

実施日　令和８年２月４日

学校関係者からの意見・要望・評価等

| |
|---|
| ・遅刻を減らす指導は家庭との連携が不可欠である。よりきめ細やかな声掛けにより家庭の理解と協力を得ることが求められる。<br>・生徒アンケートで 81.5%の生徒が「授業が分かりやすい」と回答していることは素晴らしいことだと思う。<br>・授業研究会等を通じて教師の専門性を伸ばす取組はすぐれた取組であり、新座高校の強みである。<br>・教育学では ICT の過度な使用は学力が下がるというデータもある。ICT の効果的な活用の研究は良いことだが、活用することを重点化しなくてもよいのではないか。<br>・先生方の授業の工夫が素晴らしかった。<br>・わかりやすく教える工夫も大事だが、授業の中の「問い」を意識することでより学びが深まると思う。 |
| ・学習サポーターや日本語支援員など外部人材の活用を今後も進めていってほしい。生徒の多様化に対応するためにも一層の活用が期待される。<br>・主体的に社会に貢献できる人材を育てることは公教育の役割であり、学校行事の公開や修学旅行の民泊など、社会と関わる体験の充実は有意義な取組である。<br>・授業では、生徒が落ち着いていて、先生の言葉づかいも丁寧で、生徒が大事にされているのを感じた。<br>・３年生の進路指導は、スケジュール管理がしっかりとなされ、保護者との情報共有もよく配慮されており、とても良かった。 |
| ・部活動が地域のイベントに参加する取組は地域の評判もとても良い。<br>・学校メール配信システムは保護者アンケートで 97.9%が有効と評価しており、学校と家庭の信頼関係づくりに寄与している。<br>・外からの評価が生徒の自尊心を高める効果もある。新座高校の教育活動の良さを積極的に発信してほしい。<br>・学校ホームページの充実に今後も継続して取り組むことを期待する。 |